

【第四回】

諸橋轍次記念

漢字文化理解力検定

二〇二一年九月二六日

※解答は楷書で記すこと。なお、字体や仮名遣いが一般的なものと大きく異なる場合には、減点の対象とすることがある。

【問題一】(44点)

次に掲げるのは、諸橋轍次が一九一一(大正一〇)年四月に中国の名勝、廬山^{ろざん}を旅した際の紀行文の一節である。これを読んで、あととの問い合わせに答えなさい。(問題作成にあたって、一部、文字遣いや文章を改めたところがある。)

(a)陶淵明の遺跡を尋ね、貫口^{*1かんこう}の一夜の楽しい思い出を心に浮かべながら、廬山山頂の宿に帰ろうとして道を辿^{たど}っている。寝具をア^ア担^{たん}させたボーキは少しく道を急ぐからというので私を残して一足前に出かけて行つた。自分は唯一人史跡を探りつつ、四方の風景を賞しつつ①心^{こころ}静かに歩いていつた。手には極めて僅かばかりの手荷物を①タズサえるのみである。

廬山の登り口にかかるて半ばを過ぎたと思う頃^{ころ}、そこに一匹の赤牛がおつた。しかもとぼとぼと私の進んで行くべき道を歩いているのである。飼い主もおらず、又背負つている荷物もない。まことに②長閑^{ながん}な散歩姿であつた。しばらくはこの牛に隨^ついて、(b)老馬^{ろうば}道を知るの故事^{じご}を思い浮かべながら進んで行つたのであるが、その牛の進む道はいつまでも自分の帰らんとする道そのものであつた。

ここでふと考えたことは、同じ道を歩く牛ならば、僅かばかりでもこの手荷物を背負つて貫^{ぬる}おうということであった。牛は腹に一本の帯を巻いている。そこで、その帯に自分の持つていた荷物を付けた。

牛は尚^{なお}とぼとぼと道を辿つて行く。更にそのうちにウ^ウ欲望^{よくわう}が僕の心の中に起つた。それは自分も牛も同じ道を行く。それならば自分がしばらくこの牛に乗つて行つてもよかろうということであつた。ここでエ^エ曾^なて北支那^{せいしな}に於いて驢馬^{ろば}に乗つた経験を(A)として、この牛の背に飛び乗つた。牛は尚③タイゼンとして進むべき道を辿つて行く、まことにオ^オ悠暢^{ゆうじょう}である。

牛背に跨ぎゅうはいがつて廬山の山の上から下の景色を_カ見下みくだろす心持ちは何とも言えぬものである。そのうち前に_キ覆おひいかぶさる青葉の蔭かげを通つた。ちょうどその小枝の一つが鞭に_④恰好むいちのものがあつたのを幸い、これを_⑤タオリ、その後はそれを鞭として時々これを牛尾ぎゅうびに加えて楽しんでおつた。一つ打つても二つ打つても牛は格別歩ほを早めることは無かつた。

(C) 慾は一歩々々進んで行くものである。そのうち自分の考えたことは、もう時も三時を過ぎていて、このままで宿に帰つては遅くなる。早ければ早いほどよいのであるから、少しくらい牛に歩を早めて貰つてもよからうと、そこでその希望から、一つ思い切り強く牛の尻たたを叩たたいてみた。

ところが_②南無三宝、俄にわかにいきり立つた牛は、その後廬山の上の岩道を_⑥イチモクサンに駆かけ出しだではないか。元々乗馬の術を知らない私はもう（B）である。牛の腹帶にしかと攔つかまつてはおつたが、ややもすれば振り落とされる危険に_⑦瀕へんしていいる。かくて青くなり、赤くなり、生きている気もなかつたが、しばし平道に出た時を幸い、ひらりと飛び降りて、幸いにも_⑧ヒザガシラに少しの負傷をしただけでもかくも危険は免まぬかれたが、牛の背に付けた荷物は遂にその行方ゆくえを知ることが出来なかつた。

曾*3どうていこて洞庭湖の波に煽あおられて命を失いかかつたことがあるが、それとこれが支那旅行に於ける二つの最も恐ろしかつた経験である。昔（C）は青い牛に乗つて函谷関*4かんごくかんを悠暢に過ぎ去つたということであるが、今の自分は赤い牛に乗つてまことに恐ろしい経験をなしたものである。

(『諸橋轍次著作集第九卷』大修館書店、一九七五年による)

- *1 貫口 廬山山麓の地名。諸橋轍次の旅の途中の宿泊地。
- *2 支那 当時の日本で、中国を指してよく使われたことば。
- *3 洞庭湖 現在の湖南省にある、中国で二番目に大きな淡水湖。
- *4 函谷関 現在の河南省にあつた関所。

問1 傍線部①～⑧について、カタカナは漢字に直し、漢字はその読み方をひらがなで書きなさい。（各2点）

問2 波線部ⓐ 「陶淵明」の説明として最もふさわしいものは次のうちどれか。一つ選び、記号で答えなさい。（2点）

ア 菊の花を摘みながら廬山を眺める詩を作ったことで有名。

イ 廬山にかかる滝を豪快に詩にうたつことで有名。

ウ 廬山の雪はすだれをはね上げて見る、と詩に詠んだことで有名。

エ 見る場所によってさまざまに変わる廬山の姿をうたつた詩で有名。

問3 二重傍線部⑦ 「担」の旧字体は次のうちどれか。一つ選び、記号で答えなさい。（2点）

ア 檄
イ 摶
ウ 擔
エ 擇

問4 二重傍線部① 「心静かに歩いていつた」を漢字二字の熟語で表すはどうなるか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。（2点）

ア 遷巡
イ 遙遙
ウ 邂逅
エ 邁進

問5 波線部ⓑ 「老馬道を知るの故事」とは、「老馬の知」としても知られる、中国の古典『韓非子』^{かんぴし}に由来する故事である。次に掲げるのは『大漢和辞典』の「老馬之智」の解説文であるが、空欄に入る語句として最もふさわしいものをとの選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。（2点）

齊の管仲^{かんじゆう}が山中で道に迷った時、老馬を放つて其の後に隨^{したが}い道を得た故事。転じて、（ ）智をいう。

* 「管仲」は人名。文字遣いは現代表記に改めた。

ア 部下の性格を知り抜いた者の

イ ゆとりのある心から生まれる

ウ 経験を積んで練達した

エ 追い詰められた時に発揮される

問6 二重傍線部⑥「欲望」にあるが、この熟語での読み方とは異なる音読みで「望」を読む漢字二字の熟語を、一つ書きなさい。

(2点)

問7 二重傍線部⑦「曾て」は「かつて」と読むが、「曾」(曾)とも書く)は音読みでは「そ」と読み、ひらがなの「そ」はこの漢字の崩し字が元になつたと考えられている。では、ひらがなの「み」の元になつたと考えられている漢字は何か。次の中から当てはまるものを一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 見 イ 身 ウ 未 エ 美

問8 空欄Aに漢字一文字を入れる場合に、最もふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 下 イ 元 ウ 基 エ 許

問9 二重傍線部⑧「悠暢」は、現在ではあまり使われない熟語で、「暢」を同じ読み方の別の漢字に置き換えた熟語が使われることが多い。その熟語を漢字で書きなさい。(2点)

問10 二重傍線部⑨「見下ろす」について、この意味を一文字で表す漢字は何か。次の中から最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 瞰 イ 瞳 ウ 瞥 エ 瞥

問11 二重傍線部⑤「覆」は、『大漢和辞典』ではどの部首に分類されているか。同じ部首に分類されている漢字を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 票 イ 栗 ウ 要 エ 粟

問12 波線部⑥「慾は一步々々進んで行くものである」と似た意味を表すことばとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 二兎を追う者は一兎をも得ず
イ 隠を得て蜀を望む
ウ 鹿を追う者は山を見ず
エ 小人閑居して不善をなす

問13 二重傍線部⑦「南無」は、もともとはある言語で篤く信仰することを意味する単語に由来する熟語である。次の中から、由来となつたことばがそれと同じ言語のものである熟語を一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 合羽 イ 奈落 ウ 葡萄 エ 燐寸

問14 空欄Bに入る四字熟語としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 絶体絶命 イ 自業自得 ウ 無為無策 エ 徹頭徹尾

問15 空欄Cに入る歴史上の人物は誰か。一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 孔子 イ 老子 ウ 釈迦 エ 孟嘗君

【問題II】(20点)

漢語の意味に注意して、あとの問い合わせに答えなさい。

問1 例にならつて、傍線部の一字を正しい漢字に改めなさい。(各2点)

〔例〕雨の日が優鬱なのはなぜだろう。 (解答) 優→憂

①決勝戦の晴れの舞台で、両軍の選手は意氣昇天の有様だつた。

②方針が多すぎてどれを選んでよいのか迷うことを多起亡羊という。

③予防接種を受けた後、倦退感に襲われて寝込んでしまつた。

④日中両国は一位帶水の間にあるとはいへ、解決すべき問題も多い。

⑤人事移動の時期になるとドキドキするのは、私だけではないはずだ。

問2 次の人物を生年の早い順に並べ直し、記号で答えなさい。(完答6点)

ア 伊藤仁斎 (いとうじんさい)
イ 王陽明 (おうようめい)
ウ 孔丘 (こうきゅう)
エ 朱熹 (しゆき)
オ 荀況 (じゅんきょう)

ア 朱熹 (しゆき)
イ 王陽明 (おうようめい)
ウ 孔丘 (こうきゅう)
エ 伊藤仁斎 (いとうじんさい)
オ 荀況 (じゅんきょう)

問3

次の語と関係の深い人物の組み合わせとして、正しくないものを次のア～キから二つ選び、記号で答えなさい。（各2点）

ア 一狐裘三十年

〈人物〉管仲

かんちゅう

イ 二霸

いつこきゅう

〈人物〉齊の桓公と晉の文公

せい かんこう かんこう ぶんこう

ウ 三省

さんしょう

〈人物〉曾参（曾子）

そうしん そうし ぞうし

エ 四庫全書

しきうぜんしょ

〈人物〉清の乾隆帝

せい けんりゆうてい しん ぶんこう

オ 五柳先生伝

ごりょうせんじんでん

〈人物〉韓愈

かんゆ けんりゆう

カ 六書

ろくしょ

〈人物〉許慎

きよしん

キ 七步の才

しち歩のさい

〈人物〉曹植

そうしょく *「そうも」とも読む

【問題III】(15点)

国字（日本で作られた漢字）・国訓（日本で生じた字義）について、あとの問いに答えなさい。

問1 次の字は、あるものの名を書き表すために日本で作られ、使われてきた漢字（国字）である。次の問いに答えなさい。

〔鉢〕

(1) この字の造字法を次の四つの中から選び、記号で答えなさい。(3点)

a 象形 b 指事 c 会意 d 形声

(2) この字の読み方をひらがなで書きなさい。(2点)

問2 次の字は、『大漢和辞典』に収められている国字である。偏と旁とを意味で組み合わせて、ある和語を表すが、何と訓読みするか。読み方をひらがなで答えなさい。(3点)

〔鱈〕

問3 次の語の中から、合字（「久米」→「糸」の類）の方法でできた国字で書ける語を選び、その国字を書きなさい。(2点)

〔まえ まほ まみ まゆ まろ〕

問4 次の字の中に、国訓をもつ字が含まれている。この字について次の問いに答えなさい。

〔李 芭 蛾 鮎 鶩〕

(1) その字を選び、その国訓としての訓読みをひらがなで書きなさい。(3点)

(2) その字の音読みをひらがなで書きなさい。(2点)

【問題IV】(15点)

漢字の形・音・義について、あとの問い合わせに答えなさい。

問1 中国の伝統的言語学は、字義に関する訓詁学、字形に関する文字学、字音に関する音韻学という三つの学問領域に分けられる。その三領域と、各領域に関する著述の組み合わせとして正しいものを次のア～カから一つ選び、記号で答えなさい。(3点)

- | | | |
|---------------|---------------|-------------|
| ア 音韻学——『佩文韻府』 | イ 訓詁学——『説文解字』 | ウ 音韻学——『玉篇』 |
| エ 文字学——『広韻』 | オ 訓詁学——『爾雅』 | カ 文字学——『方言』 |

問2 秦の始皇帝に命じられた李斯が、籀文を改良・簡略化して作成した当時の正式書体は何か。漢字二字で答えなさい。(3点)

問3 次の文の、空欄「A」に当てはまる漢字一文字を答えなさい。(3点)

「弔」の俗字体とされる「A」は、現代日本では「弔」と字形・字義が異なる別字として取り扱われている。

問4 次の文章の□部に見られる、発音を利用した借字法を何と呼ぶか答えなさい。(3点)

子游 武城の宰しゆうと為る。子曰はく、「女人なんじを得たるか。」と。曰はく、「澹台滅明たんたいめつめいなる者有り。行くに徑こみちに由らず。…」と。(後略)

問5 中国語のアクセントに相当する声調は、隋唐時代には平声・上声・去声・入声の四種類があつたことが知られている。そのうち入声とは、当時の発音で音節末が-p、-t、-kで終わる音節のことである。傍線部の中から、隋唐時代の中国語では入声で読まれないものを一つ選び、記号で答えなさい。(3点)

- | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|
| ア 干拓 | イ 日月 | ウ 建立 | エ 種別 | オ 清流 | カ 俗物 |
|------|------|------|------|------|------|

【問題V】(6点)

諸橋轍次の生涯や業績について、あとの問いに答えなさい。



【「芍薬の詩（自作）】

問1 昭和二四年、当時諸橋家に寄寓していた諸橋轍次の三男晋六の友人が実家から芍薬数株を持ち帰り、邸内の庭に植えた。それを見た轍次が幼い時に母が芍薬を庭に植えたことを思い出し父母への孝心をうたっている（写真）。この芍薬を植えた三男の友人は、後年俳優となるが、それは誰か、正しいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。（3点）

- ア 川谷拓三 イ 室田日出男 ウ 庄司永健 エ 香川照之

問2 諸橋轍次は中国留学に際し、「日本資本主義の父」とも称された渋沢栄一の支援を受けたことが知られている。その際、渋沢はある政治家を訪問することを支援の条件とした。後に首相となるこの政治家も轍次の中国留学を支援した。その人物の姓名を漢字で書きなさい。（3点）

